

平成25年度学校評価報告

2014.5.17

金沢学院東高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	平成24年度の状況	評価の観点	達成度判断基準	評価	判定基準	備考
1 礼節があり安全で楽しい学校	① 正しい服装容儀の指導	生徒指導課	評価:B 生徒:一般的に良好であるが、女子生徒のスカートの短かさが気になる。 教員:生徒を指導する態勢において、学年会と連携し、指導が必要。	継続的に指導が必要な生徒に対し、継続的な指導を行う。	生徒指導室での指導をパソコンで記録し、昨年度と比較。 A 90%以下 B 100%以下 C 130%以下 D 130%より多い	B	軽指導記録の数値が増加傾向にあれば、改善策を検討	
	② 携帯電話指導	生徒指導課	評価:C 校内での携帯電話使用は禁止している。使用があった者に対しては、本校独自の「段階的指導」をしている。段階的指導の成果は現れている。	生活の一部化している携帯電話の校内持ち込みを認め、使用しないマナーを身に付けさせる。	生徒指導室での指導をパソコンで記録し、昨年度と比較。 A 90%以下 B 100%以下 C 130%以下 D 130%より多い	C	前年度よりも指導数の増加が顕著ならば、携帯電話の校内持ち込みを制限する指導への移行を検討	取り締まりを強化したことによるもの
	③ 授業チェックシートの活用	生徒指導課	評価:D 授業が秩序正しく行われるよう、日ごろの授業の態度を随時チェックすることで、生徒の変化を早期に知ったり、個別指導に役立っている。	授業に良好な態度・姿勢で臨み、学力や集中度を付けさせる。	生徒指導室での指導をパソコンで記録し、昨年度と比較。 A 90%以下 B 100%以下 C 130%以下 D 130%より多い	A	授業チェックシートの数値が増加傾向にあれば、改善策を検討	チェック機能を厳しくしたことによる増
	④ 遅刻指導	生徒指導課	評価:B 平成21年度までは遅刻数は年々減少していたが、22年度は前年度より増加。23年度は再び減少。	時間を守り、正しい生活習慣を身につけさせる。	生徒指導室での指導をパソコンで記録し、昨年度と比較。 A 90%以下 B 100%以下 C 130%以下 D 130%より多い	A	遅刻回数の数値が増加傾向にあれば、改善策を検討	
	⑤ 特別指導(始末書・反省書)	生徒指導課	評価:反省書 B 始末書 C 反省書・始末書共に若干減少したが、更なる努力が必要。	校則を守り、ルールを守れることを身に付けさせる	生徒指導室での指導をパソコンで記録し、昨年度と比較。 A 90%以下 B 100%以下 C 130%以下 D 130%より多い	A	数値が増加傾向にあれば、改善策を検討	
	⑥ 保護者アンケートを通じて、本校の満足度調査を行う。	1年学年会 2年学年会	評価:A 生徒指導、友人関係、部活動、施設設備に関する面では満足度は非常に高い。	【満足度指標】 高校生活全般について、保護者からより高い満足度が得られるようにする。	保護者の総合満足度評価。 A 8.0以上 B 7.5以上 C 7.0以上 D 7.0未満	A	CまたはDの場合は改善策を検討する。また、特に満足度が低い項目については、改善策を検討	7月実施
	⑦ 卒業生アンケートを通じて、本校の満足度調査を行う。	3年学年会	評価:B スクールバス、友人関係、部活動、進路に関する面では満足度は高い。	【満足度指標】 本校を卒業していく生徒から最終的に高い満足度を得られることを目指す。	卒業生の総合満足度評価。 A 8.0以上 B 7.5以上 C 7.0以上 D 7.0未満	B	CまたはDの場合は改善策を検討する。また、特に満足度が低い項目については、改善策を検討	2月上旬実施
	⑧ 本校からの情報が、ホームページや通信等で保護者に伝わるようにする。	入試広報課	評価:B ホームページは頻繁に更新。高校通信は年に3回発行。	【満足度指標】 本校に関する情報量を多くし、保護者等が情報収集できるようにする。	保護者の満足度評価。 A 8.0以上 B 7.5以上 C 7.0以上 D 7.0未満	B	CまたはDの場合は、積極的に情報収集に努める。	7月実施
2 伸び率一番の学校	① わかる授業、楽しい授業、学力のつく授業の実践。生徒に対する授業評価(アンケート)の実施。	教務課 各教科	評価:A 教科会議時間の確保、全教科・科目における年間授業実施計画の作成、特進・選抜を除く同一コース内のクラスでの定期試験共通問題設定の義務付け、基礎力増強の呼びかけなどの施策を通じて、教員の授業に対する反省意識は高まりつつある。	【成果目標】 生徒に対し、教員の話し方、板書(行動)、授業態度、熱意、共感、ガイダンス、効果、難易度、分量、意識姿勢に関する10項目の質問を行い、授業力向上のための課題を探る。	生徒による授業評価の総合評価で、「良好」である教員数の割合。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	B	Dの場合は、改善策を検討。また、総合評価が低い教員には、管理職による指導・観察を頻繁に行い、授業力向上を促す。	12月実施
	② 漢字能力の向上	国語科	評価:D 3年卒業時における漢字検定級の無資格者は前年度と比較して微減したが、卒業時の3級以上は前年比6.3%減となった。	【成果目標】 卒業時までには生徒の大部分が3級以上の資格を取得する。	年2回の漢字検定で卒業時に3級以上の資格取得の割合。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C	CまたはDの場合は改善策を検討	
	③ 保護者アンケートを通じて、学習指導面の満足度調査を行う。	1年学年会 2年学年会	評価:C 授業や評価方法は、少しずつ統一されるようになってきたが、授業担当者によっての温度差はある。		授業や評価方法についての評価。 A 8.0以上 B 7.5以上 C 7.0以上 D 7.0未満	C		7月実施

④	卒業生アンケートを通じて、学習指導面の満足度調査を行う。	3年学年会	評価:B 生徒にとって学力が向上したと実感しているのは、進学特別コースと進学総合コースの選抜クラスに限定されている。		学力についての評価。 A 7.0以上 B 6.5以上 C 6.0以上 D 6.0未満	C		2月上旬実施
⑤	朝読書の徹底	各学年会	評価:A 朝礼前の10分前、生徒が各々準備した本を読む。ほぼ全校生徒が落ち着いた状態で取り組んでいる。	【努力目標】 全校生徒が、朝読書を積極的に取り組み、年間5冊以上の本を読む。	朝読書の時間も含めて何冊の本を読んだか。年間5冊以上読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	A	CまたはDの場合は改善策を検討	生徒へのアンケート
⑥	明確な職業観をもち大学・短大・看護医療系学校へ進学する。	進路指導課	評価:C 本校から多数の合格者を出すことを目標に、身近な系列校の特別授業、オープンキャンパスから活用する。各種奨学金制度も活用する。	【成果指標】 授業体験や大学の体験講義に積極的に参加させ、魅力ある大学生生活を実感させ、進学率を高める。	大学・短大・医療系学校への進学者の割合で判断。 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	CまたはDの場合は改善策を検討	夢・希望を叶える進路選択
⑦	国公立大学への志望者を増やし、合格者数を増やす。	進路指導課	評価:B(8名) 進学特別コースと進学総合コースの生徒が、進学講座等で学力向上を図っている。	【成果指標】 授業以外での進学講座の充実、個別添削の強化を通して、学力向上に役立てる。	国公立大学合格者数で判断。 A 10人以上 B 7人以上 C 4人以上 D 4人未満	A	CまたはDの場合は改善策を検討	進学特別コース以外からも国公立大学志望者を増やす。
⑧	就職希望者については、希望職種へ就職させる。	進路指導課	評価:B 雇用に関して、改善の兆しが見えてきた就職状況だが、かつての好況時に比べるとまだ低く、全体的にみればまだ厳しい状態である。	【努力目標】 生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、就職を支援する。	就職率で判断する。 A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B	CまたはDの場合は改善策を検討	
⑨	卒業生による職業講話を通して、自らの人生設計について考えさせる。	進路指導課	評価:A 卒業生の講話を通して、適切な人生設計を考えさせる。	【満足度指標】 アンケートの実施により把握する。	進路の参考になると答えた生徒の割合で判断。 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	CまたはDの場合は、個人面談で意欲を喚起させる。	10月実施 事後指導でアンケートを実施し、レポートをまとめる。
⑩	部活動の加入率の向上と活性化を図る。	生徒会課	評価:B 約8割の生徒が部活に加入しているが、年度途中での退部者が年間40名、入部者が9名と圧倒的に退部者が多いのが現状である。	【努力目標】 文化部の活性化を図り、学校全体の加入率向上を実現し、活気ある学校づくりを目指す。	部活動加入率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	B	CまたはDの場合は改善策を検討	加入状況調査【5月GW後に実施】で72.6%
			評価:A 部活動加入者およびその保護者の満足度は高い水準が続いている。	【満足度指標】 部活動に積極的に参加し、充実した学校生活を送っている。	部活動の満足度。 A 非常に充実している B 充実している C あまり充実していない D 全く充実していない			
⑪	県総体総合成績上位を目指す。	生徒会課	評価:A(3位) 近年では多くの部活動で成績が上がってきている。しかし、メジャー競技種目では上位校との差もあるのが現状である。	【努力・成果指標】 盛大な壮行会と一般生徒への応援の促進を図り、選手の気持ちを高め、総合成績上位を目指す。	県総体総合成績。 A 1～3位 B 4～6位 C 7～9位 D 10位以下	A	CまたはDの場合は改善策を検討	
⑫	体育部における全国大会出場数の増加。	生徒会課	評価:A 体育部は8部が全国大会出場を果たしたが、まだまだ一部の部活動に限られているのが現状である。	【努力・成果指標】 本校相撲部に対する応援と同等の壮行会・応援を行い、選手の気持ちを高める。	全国大会出場部活動数。 A 10以上 B 7以上10未満 C 5以上7未満 D 5未満	B	CまたはDの場合は改善策を検討	
⑬	文化部における全国大会出場数の増加。	生徒会課	評価:B まだまだ一部の部活動に限られているのが現状である。	【努力・成果指標】 全国総文をはじめ、各種全国規模の大会に出場を目指す。文化部への入部者を増やし、活性化を図る。	全国大会出場部活動数。 A 5以上 B 3以上5未満 C 1以上3未満 D ゼロ	C	CまたはDの場合は改善策を検討	

	⑭ 東魂祭(文化祭・体育祭)を成功させる。さまざまな学校行事で感動体験が味わえたか。	生徒会課	評価:A 生徒主体でクラスや団が協力し、催事や発表に参加する姿勢も年々積極的に、感動体験ができています。	【満足度指標】 自主的かつ積極的に企画・参加し、楽しく活気のある学校行事を目指す。	学校行事の満足度。 A 8.0以上 B 7.5以上 C 7.0以上 D 7.0未満	A	10点法で7.0未満の場合は改善策を検討	生徒へのアンケート
	⑮ 台湾修学旅行での学校交流を成功させる。	2年学年会 国際交流課	評価:A 両校で互いにダンスを披露することで親睦を深め、生徒同士の交流を通して、お互いの文化・価値観など様々な事柄について意見交換を行う。	【満足度指標】 台湾の文化・歴史を学ぶとともに、日本やふるさとの文化・歴史について考え、興味・関心を持つことを目的とする。	学校交流の状況。 A 非常に充実している B 充実している C あまり充実していない D 全く充実していない	B	CまたはDの場合は次年度に向けて、改善策を検討	11月実施 達成度評価基準については、アンケートだけでなく、具体的内容も記入させる。
3 社会に貢献する学校	① 学校行事、特に文化祭への参加を呼びかけ、地域の子供達にも楽しい場を提供する。	生徒会課 学年会	評価:B 地域・中学校・保護者に文化祭への来校は呼びかけている。年々来校者が増加している。	【努力指標】 保護者への案内とともに、近隣地域へポスター掲示と回覧板の依頼を行っている。	来客者数で評価。 A 1100名以上 B 1000名以上 C 900名以上 D 900名未満	A	Dの場合は改善策を検討	1135名
	② 笑顔で挨拶ができる。	生徒会課 学年会	評価:A 各部の挨拶運動は定着してきたが、挨拶の輪が広がるまでには至っていない。	【満足度指標】 笑顔で挨拶ができることは、最も身近な社会貢献である。	保護者による評価 A 8.5以上 B 8.0以上 C 7.5以上 D 7.5未満	B	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月実施
	③ 文化部の地域貢献。	生徒会課	評価:B 吹奏楽部の福祉施設での演奏、チアダンス部・和太鼓部の様々な催し物への参加、料理部の地元の食材を活かした食品の開発や販売など、地域社会での活動が広がってきている。	【努力指標】 福祉的な分野に限らず、校外の人々に喜びや感動を与える活動を行う。	一般の方からの反応による評価 A 非常に評価されている B ある程度評価されている C あまり評価されていない D 全く評価されていない	B	CまたはDの場合は、改善策を検討	
	④ 末町ボランティア活動。	生徒指導課 3年学年会 生徒会	評価:B オリエンテール隊による交通指導や、クリーンアップ末町、高齢者宅の除雪活動を通して、平素お世話になっている末町の皆さんに恩返しをする機会を設けている。	【努力指標】 地元の方に喜んでもらえる活動を行う。	地元の方からの反応による評価 A 非常に評価されている B ある程度評価されている C あまり評価されていない D 全く評価されていない	B	CまたはDの場合は、改善策を検討	
	⑤ 美術デザインコース展示	美術デザインコース	評価:A 生徒の作品を、中学校のみならず大型量販店においても展示し、一般の方にも楽しんでもらえる癒しの空間を設けている。	【努力指標】 中学生のみならず一般の方にも楽しんでもらえる活動を行う。	中学生・一般の方からの反応による評価 A 非常に評価されている B ある程度評価されている C あまり評価されていない D 全く評価されていない	—	CまたはDの場合は、改善策を検討	専任教諭1名となり、ほとんど活動ができていない。

以上の結果に対して、「学校評価報告書」(後援会役員7名からいただいた御講評をまとめたもの)を掲載します。

(問)

- ・学校評価報告書の判断基準と評価が適切かどうか。
- ・その他

(意見をお聞きした方)

- ・本校後援会(PTA)の会長はじめ7名の役員

■生徒指導

- ・携帯電話の使用については、C評価であるが、生徒が使用したかどうかの判断はどのように行っているのだろうか。便利なツールではあるが、最近の子どもにとっては、精神安定剤のように欠かせないものになっている。かといって昔のように、携帯電話が無い時代には戻れない。学校内への持ち込みは許可されているようだが、ルールをわきまえた行動が取れるように、きちんと身につけさせて欲しい。持ち込み自体を禁止されないように、生徒が学校の信頼関係に伝えてくれるとよい。

- ・授業中の生徒の活動の様子を項目毎にチェックしているが、D評価からA評価になった内容は何か。また、この取り組みが始まってから、学習環境がより改善されているのがわかったので今後も継続していただきたい。

- ・いじめはあってはいけないが、学校はどのような形で未然に防いでいるのか。定期試験後に実施している生活アンケートで生徒の生の声を聞き、担任と生徒指導課が連携して問題に取り組んでいる。このことが、からかいや嫌がらせといった初期段階の早期発見にもつながっていると聞き、今後も継続していただきたい。

■進路指導

- ・今後も就職率100%を維持し、アピール出来ればよい。

■学習指導

- ・卒業生の満足度アンケートから、やや不満を持っているようである。今後の改善に期待したい。

■資格試験

・全校を挙げて、漢字検定に取り組んでいる。英語検定もできないか検討していただきたい。

■不登校・退学者数

・1年生にも不登校の生徒がいるようだが、楽しい学校であれば登校してくるのではないか。
全員を救えないかも知れないが、改善策はないものか。退学率は何%くらいなのか。
また、入学式当日の様子がおかしい1年生も見かけた。きちんとした対応をお願いしたい。

■その他

・安全で楽しい学校という印象を受ける。

・家庭でもスカート丈や髪の色に関して注意している。学校でも同じ対応をしてくれるのが有り難い。

・学校の様子が分からない保護者が多い。保護者同士の交流の場を設けることはできないか。

・生徒全員に対して、授業アンケートを実施している。教員の資質向上にも繋がっており、研鑽に励んでいただきたい。

■全体(総括)

〈目標や基準の設定について〉

・全体としては目標に対して十分な成果が得られていて、満足のいく結果になっている。

〈「学校評価報告書」を踏まえた今後について〉

・保護者からの高い評価や期待に応えられるよう、今後もさらに自己研鑽に励む。

・各校務分掌の取り組みだけでなく、学校全体を見通した目標設定を行い、生徒・教職員の加重負担にならないように配慮する。

・社会に貢献できる学校になるよう努める。

これらの「学校評価」の結果を参考にしながら、本校の教育をより質の高いものに改善していきたいと教職員一同考えております。
ご意見等があればお寄せください。

また、平成26年度以降も「学校評価」を実施していきますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

学校評価委員会